

注目の学部注目！

地元の課題を解決するためには、外部からの視点が重要。福島県の問題解決に取り組みたいと考えている人は県外の大学にも目を向けてみよう。例えば、文京学院大学人間学部コミュニケーション社会学部では郡山市の逢瀬町と提携し、まちづくりの研究をしています。

地域系の学部

地域と名のつく学部は、2010年代の半ば以降一気に増加しています。地元商店街の活性化など地域社会・行政・企業と連携したプロジェクト型学習に取り組んでいるのが特徴です。

【主な大学：弘前大（人文社会科学）・岩手大（人文社会科学）・福島大（行政政策学類）・宇都宮大（地域デザイン科学）・東北学院大（共生社会経済）・東北公益文科大・東北芸術工科大（デザイン工・企画構想）】

【高崎経済大学】

群馬県や高崎市に限定せず、日本全国の地域で活躍できる人材の輩出を目指している。2年次後半からゼミがスタートし、フィールドワークを通して地域の人々とコミュニケーションを図りながら地域課題に取り組んでいる。

デザイン・アート系の学部

企業では、ものづくりや新しいサービスの企画などでクリエイティブ、デザインの重要度が急速に高まっています。[見る(観察力)→考える(思考力)→組み立てる(構成力)→描く(表現力)]といった造形作品製作の工程は、どの業種や職種でも問われる仕事力になります。

【主な大学：山形大（工・建築デザイン）・宮城大（価値創造デザイン）・長野大（企業情報）・東北芸術工科大・大妻女子大（ライフデザイン）・武蔵野美術大】

【多摩美術大学】

アーティスト以外にもトヨタ自動車やソニーなど各業界の人気企業に毎年多くの卒業生を送り込み、就職希望者の約9割が多様な業界のクリエイティブ職に就いている。コロナ禍においても門戸が閉ざされないのは、「ゼロからイチを生み出せる人材」が必要とされているから。機械やAIに代替されない創造性、感性、デザイン性、企画力を持った人材が必要とされている。

データサイエンス学部

AIやビッグデータを活用した第四次産業革命が進行中です。経済産業省によると日本のIT人材は現状で約17万人が不足していますが、2030年にはこれが約79万人に膨れ上がります。それに対応するために「データサイエンス学部」を開設する大学が出てきています。データサイエンスやAIは、従来は工学部など理系学部で教えていましたが、新たに作られた学部では、現実の社会課題・ビジネス課題に対応できる力を養うため、文理融合型の教育に取り組んでいます。【主な大学：横浜市立大・立正大・南山大】

【滋賀大学】

100社以上の企業等と連携しており、多くの企業からナマのデータを提供してもらい、1年次よりプロジェクト型学習形式(ゼミ)で授業を行う。

【武蔵野大学】

座学も試験も一切なく、学生自身が能動的・自律的に学ぶスマートラーニングを実施。正解のない課題の解決を自分で考え、メンバー相互で考える経験を重ねていく。

グローバル・国際系の学部

英語をツールとして何を学ぶのかで大きく分かります。メインが異文化理解なのか、国際協力か、幅広い教養を学ぶのか。また留学の扱いも全学生に長期留学を課すところもあれば、語学留学や短期留学がメインの大学もあります。留学生の割合でもキャンパスの雰囲気は大きく変わります。

【国際教養大学】

すべての授業が少人数制で英語によって行われる。1年次は全寮制。学生の4分の1が留学生である。また全員に一年間の留学を必修としており、留学先の大学は1名で行くことが多い。現地の学生と自分の力で人間関係を築いていく。